



進路だより

令和6年度

第3号

令和6年5月31日発行

渋川青翠高等学校 進路指導部

●● 企業訪問報告 ●●

中間試験期間中に昨年度本校卒業生が入社した企業を中心に企業訪問を実施しました。元気に活躍している卒業生が多く安心しましたが、自分の思っていた仕事ではなかったという理由で4月中に退職してしまった卒業生もいました。そのようにならないよう、事前にしっかりと企業を調べ、企業見学では積極的に質問できるようにしておきましょう。また、青翠の先輩が職場にいてとても安心して仕事に取り組んでいるという声も多く聞くことができました。進路ノート・進路の手引きに掲載されている過去の就職先一覧にある企業を調べるのも良いかもしれません。

多くの企業から入社までに必要な事として「コミュニケーション能力」と「自動車免許の取得」という話をさせていただきました。コミュニケーション能力はすぐには身に付きませんので、就職希望の人は普段の生活で、積極的に色々な人と話しをするよう心掛けましょう。3年生は成績と欠席が理由で教習所の許可が下りないということがないよう、日々の勉強と学校生活を大切にしてください。

●● 先生方の進路・学生体験記 ●●

先生方の進路・学生体験記の2人目は中山剛志先生です。

No.2 氏名：中山 剛志 教科：地歴公民

出身高校：群馬県立伊勢崎東高等学校（現・伊勢崎高校） 出身大学：國學院大学文学部史学科

私は高校1年から野球部に所属し、野球漬けの毎日でした。部活が終わり家に帰ると疲れ切っていましたが、怖い英語の先生が担当していたリーディングの予習だけは欠かさずにやりました。英語の担当の先生が代わり、予習をやらなくなった途端に模試の英語の点数がとれなくなりました。恐怖からやっていたことではありましたが、その予習が自分の力になっていたことを実感しました。

野球に取り組める時間を増やすために、授業は真剣に取り組んでいました。定期試験一週間前は部活動が休みになりましたので、試験日程から勉強の計画を立て、その一週間は集中して毎日6時間以上勉強していました。

志望校を決めたのは3年の春です。歴史が好きで、歴史の勉強をしたかったので、史学科のある大学を調べていました。一般受験の選択肢もありましたが、進路指導室に張り出されていた指定校一覧に史学科のある大学を複数見付けました。その中に、日本史で有名な教授が多く在籍している國學院大学の大学名が目に入りました。指定校推薦基準が4.0以上でしたが、それ以上の評定を維持できていたので國學院大学を受験することを決めました。

私が高校時代に感じたことは、やりたい勉強は楽しいということです。勉強というと嫌なものだと思われがちですが、興味のある勉強は楽しいです。ぜひ皆さんも楽しいと思える勉強に出会えるよう、前向きに勉強に取り組んでみてください。

大学時代はサッカーサークルの会長を務めていました。ここでは練習日の設定や練習場所の予約、他県への日帰り遠征の企画運営など、現在の教員の仕事にも生かせるような体験をすることができました。

大学4年間はスパゲッティ屋さんでバイトをしていました。ホールだけでなく調理も担当していましたので、今でもスパゲッティやオムライス、ピザだけは妻よりも美味しくつくることができます。

大学4年生の時に書いた卒業論文が今でも忘れられません。半年間毎日のように図書館にこもり、論文を完成させました。本当に大変でしたが、一つの研究テーマにあれだけの時間と力を注ぐことができたのは今でも貴重な経験になっています。



伊勢崎東高校野球場にて